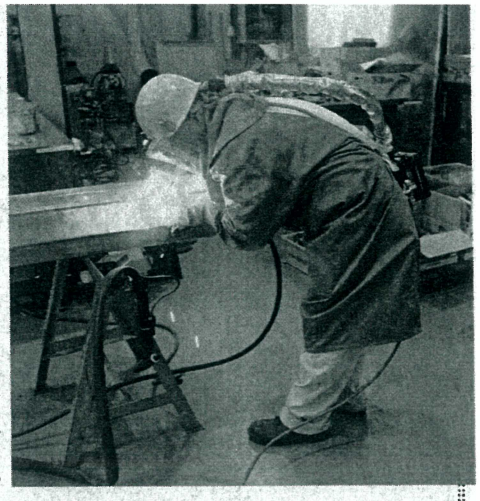

背中の細いチューブに開いた小さな穴から冷たい風が吹き出てくる（東大阪市のエクセラント）

「冷却服」導入　東大阪の工場

「溶接 集中できる」

社長「人材確保に必要」

最高気温が32度を超えた今月3日。大阪府東大阪市の鉄道部品メーカー、エクセラントの工場では大型の扇風機と局所タイプのエアコンがフル稼働していた。35度前後に達する2階の溶接工程は少し様子が異なる。

平田智也さん（29）は溶接機の炎から体を守る厚手の作業服を着用しているにもかかわらず、涼しげな様子で作業を進める。その秘密は作業服の内部にある。青色の細いチューブを首・肩からぶら下げていた。この製品は東京都北区のジャスダック上場企業、重松製作所の個人用冷却器「クーレット」。10度前後に冷やされた空気がチューブの小さい穴から出る。エクセラントは今春約6万円で2セット購入。気温が上がり始めた4月ごろから使い始めた。

平田さんは「キンキンに冷やしたエアコンの前で涼んでいる感じ。汗をかく量も減り作業に集中できる」と喜ぶ。昨年はスポットタイプのエアコンと小型扇風機だったので「汗が止まらず体力的にきつかった」という。

熱中症対策など労働環境改善に対する経営者の意識も変わりつつある。エクセラントの秋本倫宏社長は「優秀な新卒社員を確保するには暑さ対策など作業環境を良くする必要がある」と強調する。東大阪市内の金型メーカー経営者は「快適な職場で成果を上げてもらいたい」と話している。